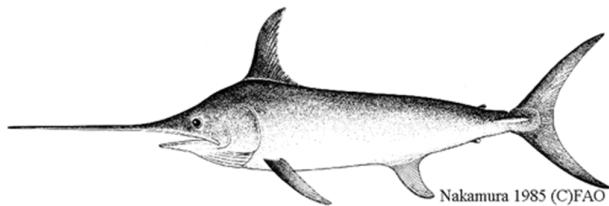


メカジキ インド洋

Swordfish, *Xiphias gladius*



管理・関係機関

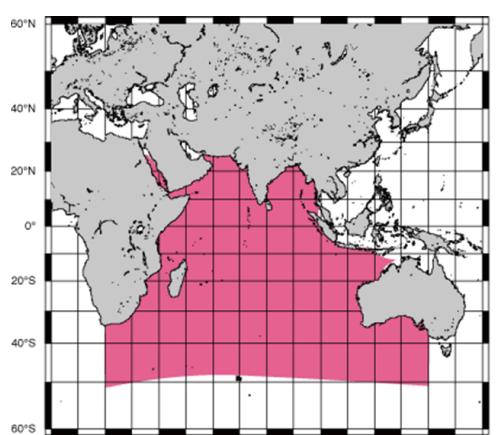
インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)

生物学的特性

- 体長・体重：最大 455 cm (眼後叉長)・550 kg
- 寿命：30 歳以上
- 成熟開始年齢：雌 (6 ~ 7 歳)、雄 (1 ~ 3 歳)
- 産卵期・産卵場：赤道付近の海域で 3 日に一度 7 か月 間継続して産卵していると考えられている、ソマリア沖・ジャワ島沖
- 索餌期・索餌場：マダガスカル東南部沖合・南アフリカ沖合域及び豪州西部・南部沖 (索餌期は調査中)
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：小型歯鯨類、さめ類

利用・用途

刺身、寿司、切り身 (ステーキ、煮付け)



インド洋におけるメカジキの分布

漁業の特徴

本種は、日本及び台湾のまぐろ類を対象としたはえ縄漁業の混獲として（台湾は時には対象種として）、1950 年代より漁獲されている。1990 年代からは、沿岸国・島しょ国（スリランカ、インドネシア、レユニオン、インドほか）がメカジキを対象とした操業を開始した。また、2000 年前後よりスペイン及びポルトガルのメカジキはえ縄漁船が遠洋漁業に参入した。

漁獲の動向

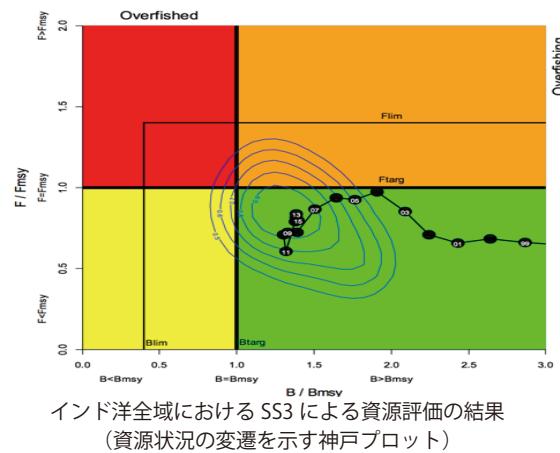
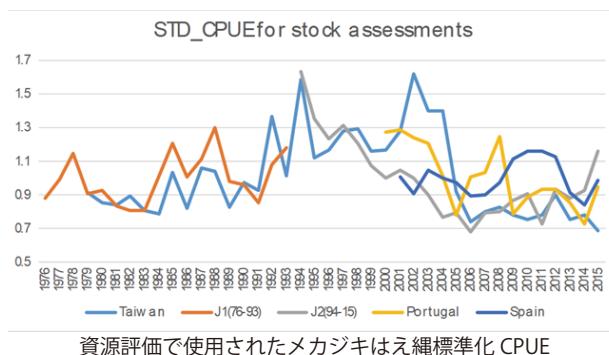
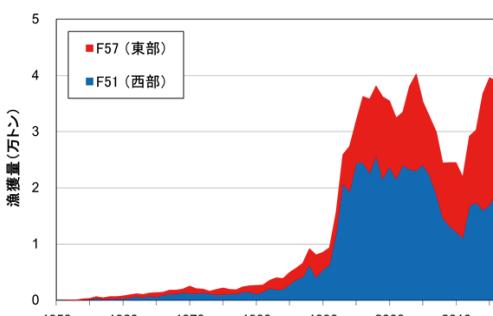
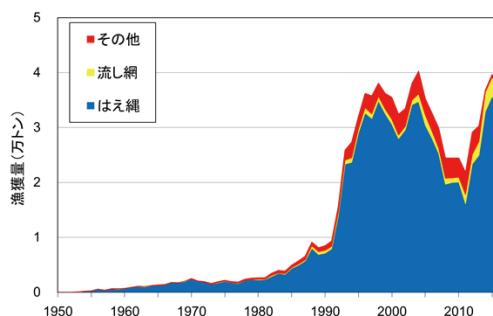
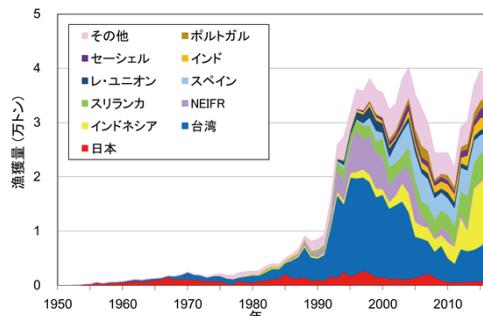
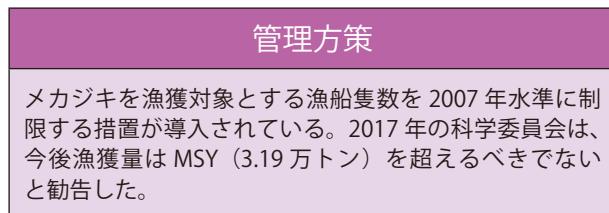
本種は、日本及び台湾のまぐろ類を対象としたはえ縄漁業の混獲として（台湾は時には対象種として）、1950 年代より漁獲され始め、1990 年初めまでの約 40 年間に総漁獲量は徐々に増加し、1992 年には 1.6 万トンに達した。1990 年代に入ると、沿岸国や島しょ国がメカジキも対象とした操業を開始し、さらに台湾の漁獲努力量が増加したため、総漁獲量は 1993 年には 2.6 万トンへと増加した。総漁獲量は、その後も増加を続け、1998 年に 3.8 万トンに達し、第 1 回目のピークを記録した。しかし、1999 年から総漁獲量は減少し、2001 年には 3.2 万トンまで落ち込んだ。この頃よりスペイン及びポルトガルのメカジキはえ縄船が遠洋漁業に参入したため、2002 年より総漁獲量は再度増加し、2004 年に 4.0 万トンと過去最大の漁獲量（第 2 回目のピーク）を記録した。しかし、2000 年半ばからソマリア沖の海賊の活動範囲が拡大し、まぐろはえ縄船が他の大洋へ移動し漁獲努力量が減少したため、総漁獲量は 2005 年から減少し 2011 年には 2.2 万トンまで落ち込み、1992 年以来 19 年間で最低の漁獲量となった。2012 年に海賊活動が収束し、一部はえ縄船（台湾・中国）がソマリア沖へ戻りつつあるため、総漁獲量は 2012 年以降急増し 2015 年には 4.0 万トン弱となり過去 2 番目の総漁獲量を記録した。2014 年と 2015 年はインドネシアの漁獲量が急増しそれぞれ 1.1 万トン・1.4 万トンを記録し、台湾漁獲量の 2 倍近くになりメカジキの最大漁業国となった。

資源状態

資源評価の結果は不確実性が多く、親魚量などは信頼のある結果が得られなかつたので、以下相対値で示した。SS3 によるインド洋全域の資源評価（1950 ~ 2013 年データ使用）の結果 ($SSB/SSB_{MSY}=1.50$ 、 $F/F_{MSY}=0.76$)、資源状況は安全な状態となっている。しかし 2015 年の漁獲量（4.0 万トン）は MSY（3.15 万トン）を超えた。



インド洋におけるメカジキの産卵域及び索餌域



メカジキ (インド洋) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	中 位
資源動向	減 少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	2.1 万 ~ 4.0 万トン 最近 (2015) 年 : 4.0 万トン 平均 : 3.2 万トン (2011 ~ 2015 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	576 ~ 770 トン 最近 (2015) 年 : 707 トン 平均 : 666 トン (2011 ~ 2015 年)
管理目標	MSY=3.15 万トン
資源評価の方法	SS3
資源の状態	<ul style="list-style-type: none"> 2015 年における資源は、$F/F_{MSY}=0.76$ 及び $SSB/SSB_{MSY}=1.50$ で安全な状況にある。 しかし、2015 年の漁獲量は MSY を超え資源状況は悪化しつつある。
管理措置	<ul style="list-style-type: none"> 今後の漁獲量は MSY (3.15 万トン) を超えるべきでない (2017 年第 20 回科学委員会勧告) オブザーバープログラム実施 (決議 : 11/04) 漁獲量・漁獲努力量収集 (決議 : 15/01) 義務データ提出 (決議 : 5/02) <p>その他はインド洋メバチ参照のこと。</p>
最新の資源評価年	2017 年
次回の資源評価年	2020 年